

JP-MIRAI

ミャンマーの現状

JP-MIRAIスタディーツアー

写真：シュエダゴンパゴダ（参加者撮影）



ミャンマーの現状：報告内容



- ◆はじめに
- ◆政治・経済情勢
- ◆人口・民族構成と紛争マップ
- ◆都市の様子
- ◆人々の特徴
- ◆送出しへの影響
- ◆おわりに
- ◆参考情報

写真：レストランの地元野菜（参加者撮影）



はじめに

- ミャンマーは東南アジアに位置する人口5,797万人の多民族国家
- 2021年2月のクーデター以降、軍による実効支配が続いており、政治、経済、社会の各分野で大きな混乱が生じている
- ミャンマーの現状をJP-MIRAIスタディーツアー参加者の視点により報告いたします。

写真: ジャパンセンターからのヤンゴンの街なみ(参加者撮影)



政治・経済情勢



政治体制

- 軍による実効支配
- 国際社会から未承認



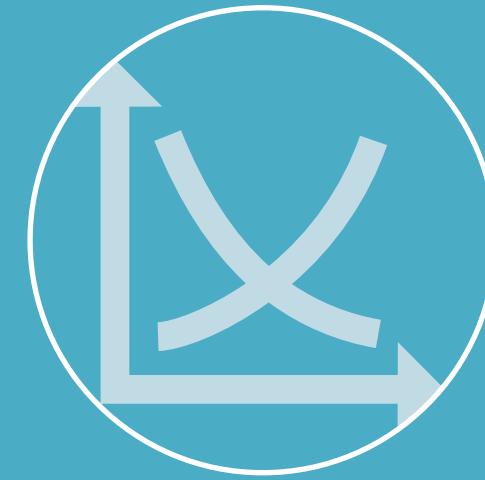
経済規模

- GDP 595億ドル(一人当たり1,105ドル)
- 2010年代後半 7%
- **クーデター直後はマイナス17.9%まで急落**
- その後は2%程度
(2021/22年度、IMF推計)



主要産業

- 農業: コメ、豆類
- 資源: 天然ガス、鉱石
- 製造業: 衣料品、食品
- サービス業は衰退
- **海外移民1000万人?**
→ 移住労働が外貨獲得源



経済課題

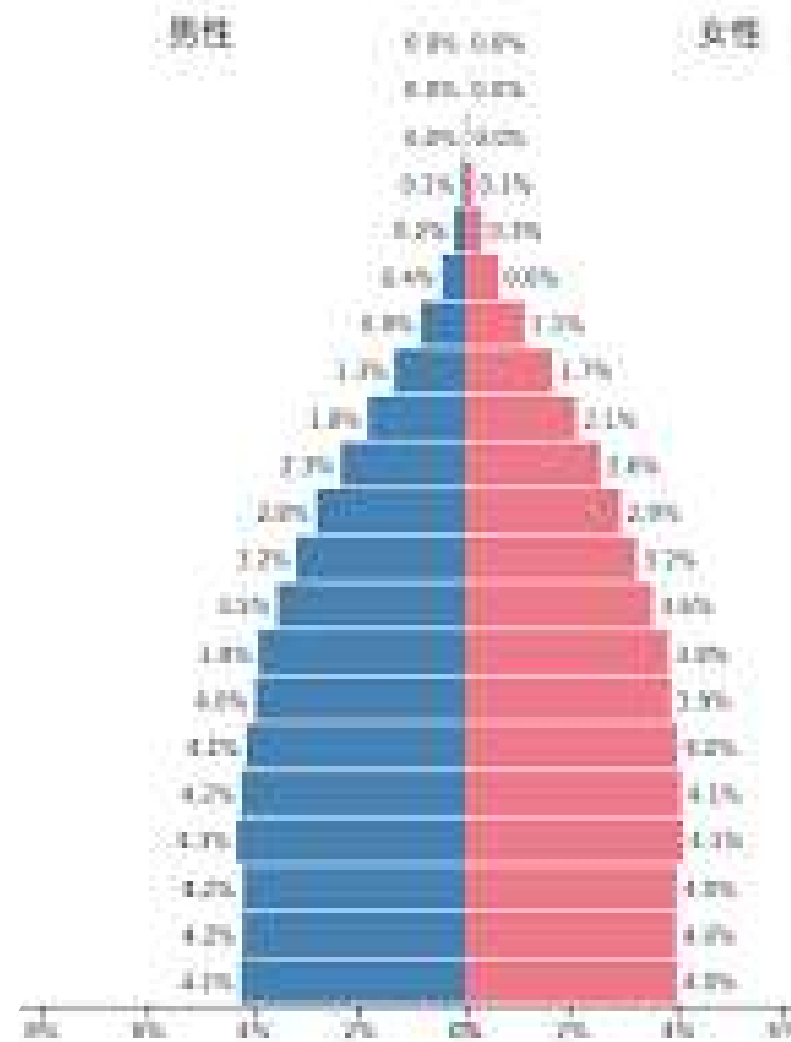
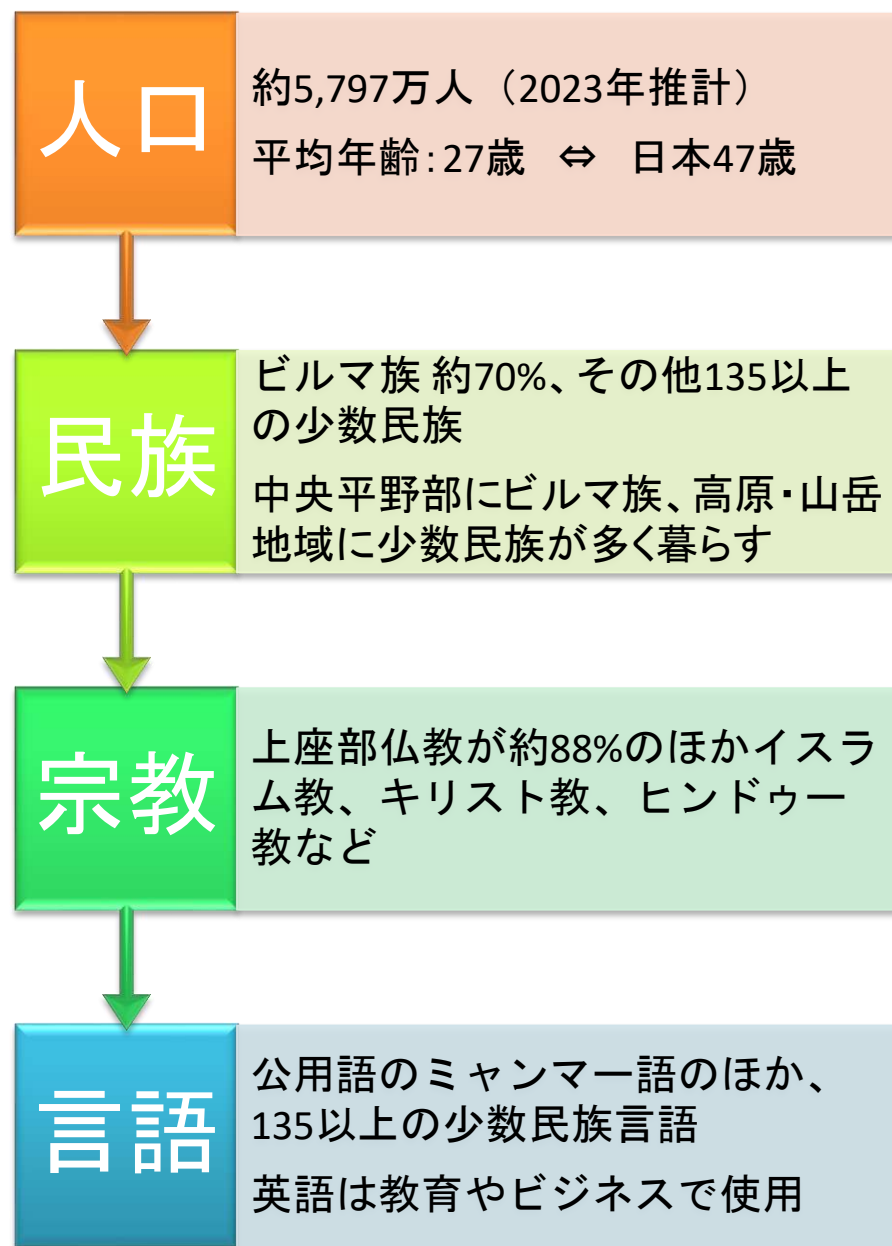
- インフレ、通貨急落
⇒ 対USD7割↓ 対円4割↓
- 国民75%が貧困状態
- 外貨の強制兌換 & 公定レート(半額)
→ 銀行間送金すると半減し、その分は軍の収入に



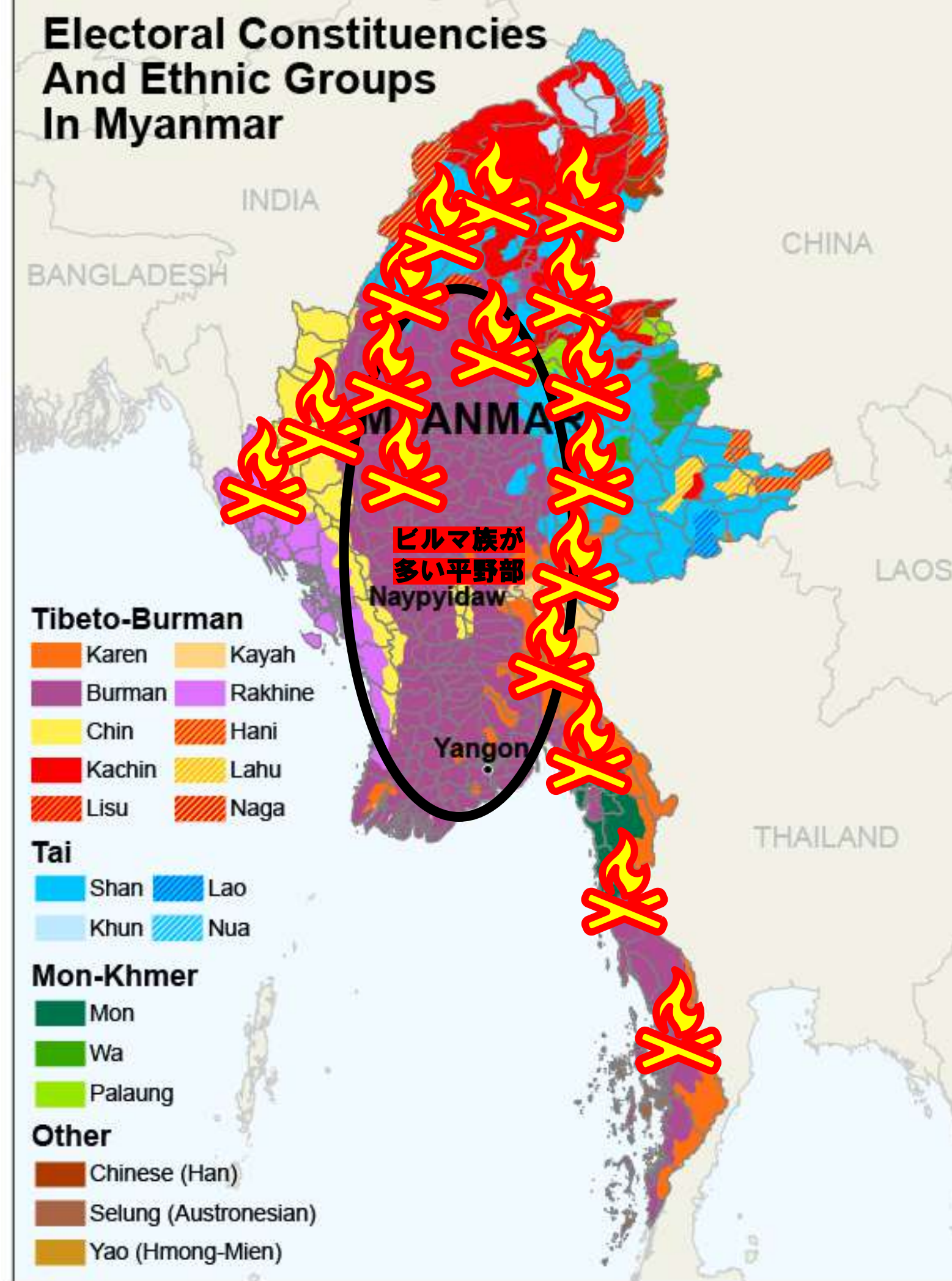
政治課題

- 軍支配地と抵抗勢力支配地で国土が二分
→ 国土の7割が紛争状態
- **突然の法令や拘束**
→ 徴兵制や業者拘束等

人口と民族構成



人口ピラミッド出典: ミャンマー 2022 -PopulationPyramid
地図出典: The New York Times
紛争地出典: ニューズウィーク&ミャンマー独立系メディア





平穏に見える 都市部

拡大する 紛争地

- クーデター前は山岳部で紛争
- クーデター後は、紛争地が平野部にも拡大
- 農村部と都市部の格差は変わらず

→地元が紛争地になってしまい、寮付の日本語学校へ入る若者も

右上・左: 参加者撮影
右下: 日本ビルマ救援センターウェブサイトより





初の本格鉄骨高層ビル

都市の様子

- 都市部は一見すると平穏に見える
- 通貨急落のため不動産投資や飲食業が活況
- 相互扶助精神からか、市民の暴徒化などの混乱はない
- コロナ禍を経て、日本からの対面面接も再開。問題なく出張できている。

ただし...

- 以前と比較して大都市での犯罪が増えている。外国人は狙われやすく徒歩移動は危険
- 散発的な兵士や警察官をねらった爆発事件
- 発電インフラ不足で半日以上停電。(ホテルや商業施設は自家発電)
- コメ価格や実勢レート上昇を抑えるため業者を拘束(日本人も)

CAF WORLD GIVING INDEX FULL TABLE

10 year aggregate scores and ranking

Country	Ranking	Score	Ranking	Score	Ranking	Score	Ranking	Score
United States of America	1	58%	3	72%	11	61%	5	42%
Myanmar	2	58%	49	45%	1	81%	3	43%
New Zealand	3	57%	10	64%	9	65%	6	41%
Australia	4	56%	11	64%	8	68%	12	37%
Ireland	5	56%	16	62%	7	69%	10	38%
Canada	6	55%	5	64%	10	63%	11	37%
United Kingdom	7	54%	19	60%	2	71%	25	30%
Netherlands	8	53%	37	53%	5	71%	14	36%
Sri Lanka	9	51%	29	55%	19	50%	1	46%
Indonesia	10	50%	86	42%	6	69%	7	40%



人々の特徴

- 寄付文化(世界人助け指数上位⇔日本は最下位あたり)
- 親日(アニメやドラマ)
- 家族や目上の人を大切にする→仕送り&介護の希望者
- 識字率が高い⇔農村部の高校・大学進学率は高くない
- 高校卒業&大学入学試験の合格率3割=優秀
- 暗記中心教育で、自分の考えをのべるのが苦手

出典: World Giving Index Ten years of giving trends (Charities Aid Foundation, October 2019)

写真: シュエダゴンパゴダの掃除をするボランティア(参加者撮影)

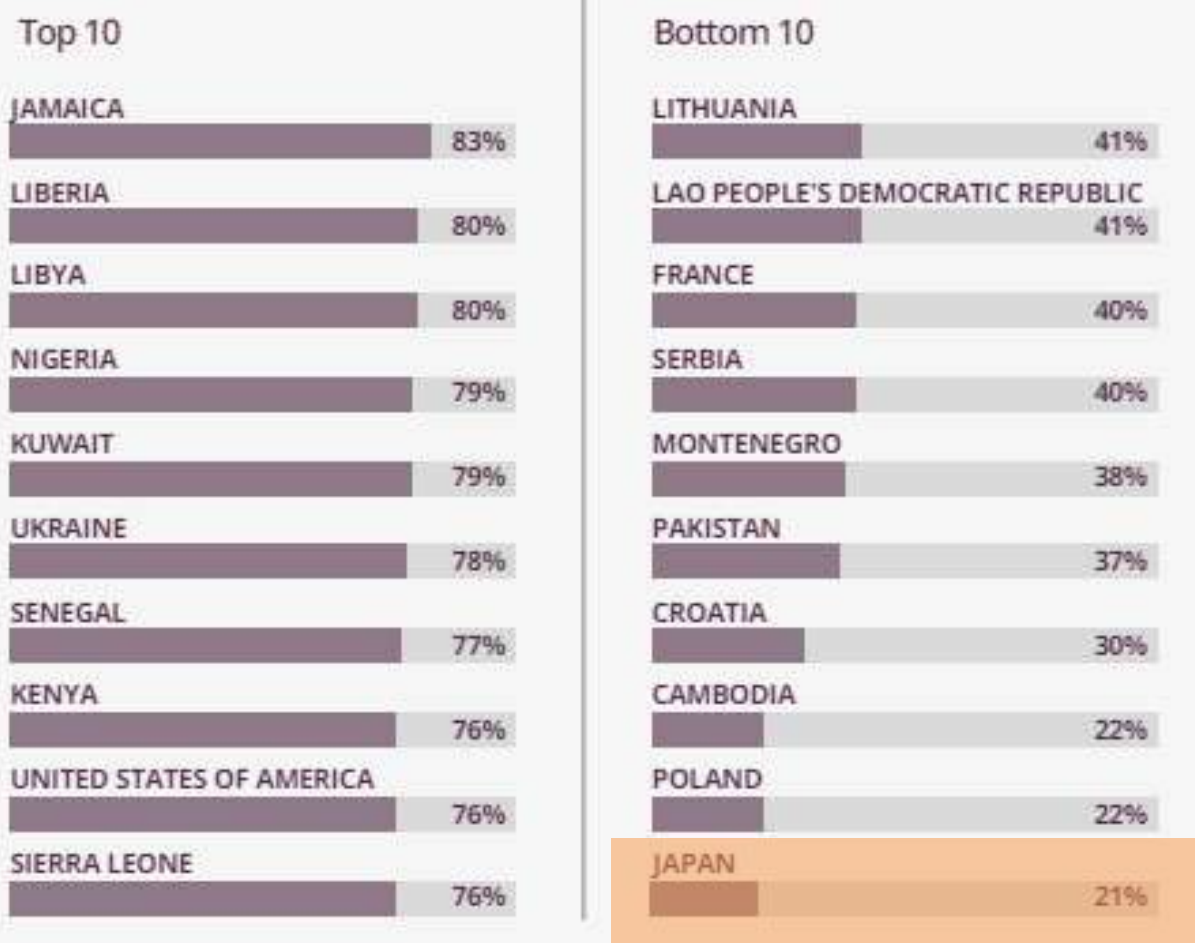
世界人助け指数 World Giving Index 2023

総合指数 ミャンマー6位 日本139位(下から4番目)

Top and Bottom 10: the three measures ranked



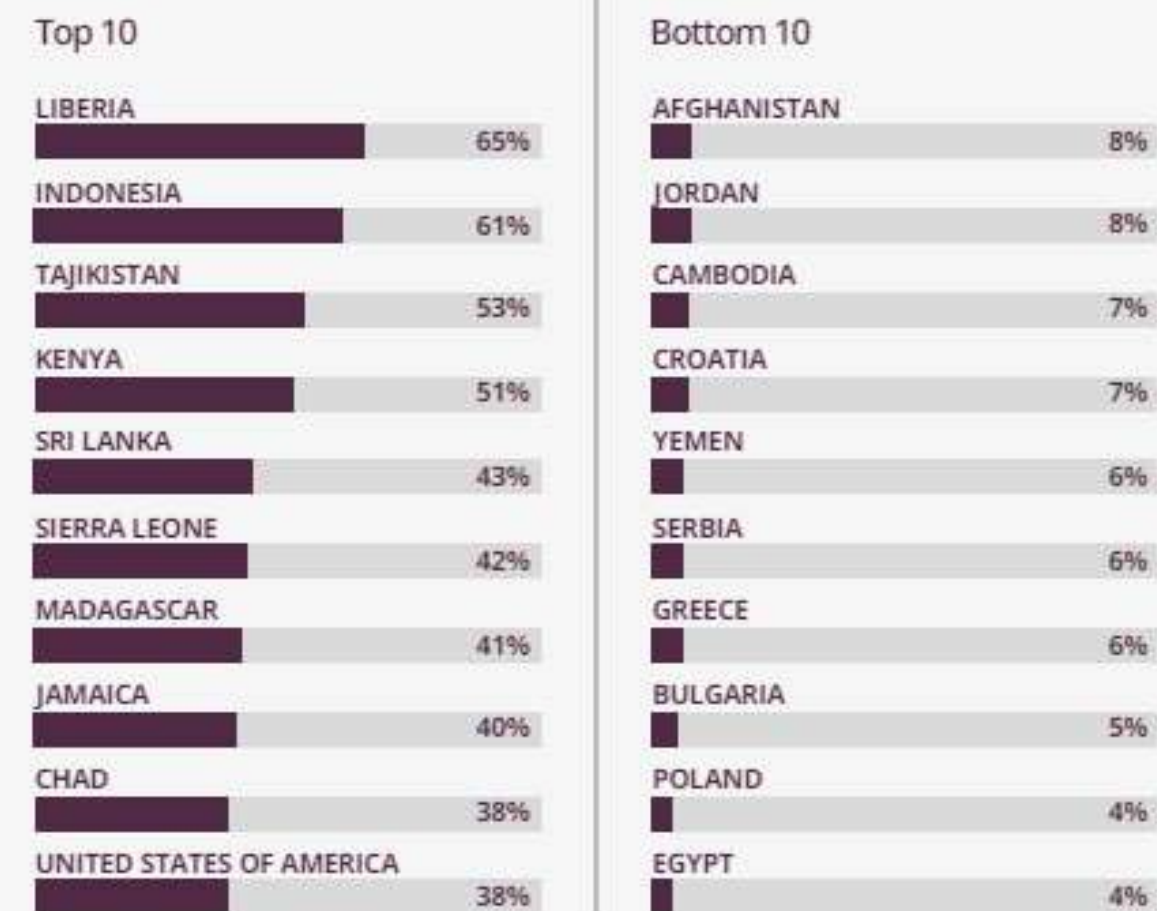
Helped a stranger



Donated money



Volunteered time



送出しへの影響

悲惨な社会状況
→海外へ！

JLPT受験者数
世界で2番目

2040年
主要外国人材

友人と相談ち!?
出国を焦る

正規ルートより
速いブローカー

軍or民主政府に
目立たない...

学校閉鎖
→中退・休学



おわりに

- 渡航前は「生きて帰れない!？」と不安...
- 大変な状況ではあるが、経済をまわそう、生計を立てようと懸命な人々がいる
- 他国と比べて日本は働く先としてどうなのかも含めて、我々もミャンマーの状況を学び、彼ら側の視点を知る必要があると痛感

- 同じように見える若者も、ひとり一人ちがう。若くして、背負っているものが大きい
- 今後の情勢は誰もわからない。だからこそ、日本語学習などに懸命に取り組む若者たち
- ミャンマー人材への待遇、研修内容、そしてコミュニケーションが、少しでも彼らの努力にこたえるものであってほしいと願っています



参考資料

- 外務省 ミャンマー基礎データ
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/myanmar/index.html>
- JETRO ミャンマー - 基礎情報
<https://www.jetro.go.jp/world/asia/mm/>
- 国際協力銀行 ミャンマーの投資環境:
https://www.jbic.go.jp/ja/information/investment/image/inv_myanmar24.pdf
- UNDP Stories “Can Myanmar bounce back?”
<https://www.undp.org/stories/can-myanmar-bounce-back>